学校・学級掲示板で生かす

子どもに訴えかける学校掲示,子どもが見える学級掲示

本場面におけるポイント

●学校・学級掲示板を大いに利用する
「心のノート」は大判で印刷することができ，カラフルで子どもにとってもなじみやすいので，掲示板等での利用にも適している。折々の生活や課題意識に関連したページの掲示は，子どもたちの道徳性を養う上で大いに有効である。

●目に触れる機会を増やす
子どもたちが様々な情報を求め意識的に目を向ける学級掲示板等の素材に生かすことで，「心のノート」が目に触れる機会も増え，活用を促すことにつながる。また，多くの来校者の目に触れることによって，学校における道徳教育の取組について保護者や地域の人々が理解を深め，学校と家庭や地域社会との「心の架け橋」となる。

●意見交換の場ができる
一方的なメッセージの掲載だけでなく，子どもたちの声を聞いたり，子ども同士の意見交換に生かしたりする。

学校行事や学級の実態を意識した活用事例

ある学級では合唱コンクールを間近に控えた10月，中学校用P.90～91，P.104～105の見開き2ページずつ計4ページを掲示した（下写真）。

実はこの学級では，合唱の事実上のリーダーとなる指揮を担当した子どもが，学級をまとめようとするあまり，クラスメートに多くを求めすぎ，その子どもと他の子どもとの関係がギクシャクし始めていた。そんなとき，その子どもが学級担任との話合いの中で次のようなことを言ったのである。

（「心のノート」の掲示を見て）
私は一人でがんばり過ぎていたかもしれないと思う。
自分は一人じゃない。もっとみんなに頼ってみよう。

それからは，合唱練習の中で曲を自分のイメージに近付けようとするよりも，クラスメートの意見を取り入れ，みんなで一つの曲を作り上げることを心掛けた。

練習は活気を取り戻し，よい雰囲気の中，合唱コンクール当日を迎えた。結果は目標の優勝には届かなかったものの，子どもたちの表情はさわやかであった。

学級掲示板に掲示した「心のノート」が，学級の中で孤立しかけていたこの子どもを救うとともに，よりよい集団をつくるきっかけになったといえる。

課題作文に活用した事例

1年生のある学級では，毎週末，作文の課題を出している。中学生にとって自分の考えを表現することは大切なことであり，同時に難しいことでもある。その表現の方法として自分の思いを文章にして記述させているのである。この作文の題材探しに「心のノート」を生かしてみた。事前に教師が題材となりそうな「心のノート」のページを学級掲示板に掲示し，子どもが自分の心に留まったものについて自由に思ったことを書かせたのである。子どもたちはそれらのページをきっかけに様々な内容について作文を書いた。作文の中から子どもの了解を得ていくつかを学級掲示板に掲示したことにより，子どもたちの興味・関心は多様な方向に広がった。

次の文章は，ある子どもの作文である。

～自分の個性を伸ばそう～

先日，学校で「心のノート」の掲示を見ていたら，「あなたらしさがあなたの個性」というところが目に留まりました。自分の中にあるよいところ，改めたいところに，さらなる磨きをかければ，自分の個性はきっとよりよく伸びる，というような内容でした。

私は自分のことについて考えてみました。私には「理屈っぽい」という面があります。無意識にも人の嫌がることを言っているのでは･･･と思い，直さなくてはと思っていました。しかし，これを読んだ後，あまり悪いように考え過ぎずに，よい方向へ考えてみようと思いました。すると，この理屈っぽいところも生かせば私は「人を納得させる」ことができるのではないだろうかと思ったのです。この他にもいろいろな自分の悪い面をよい面としていけたらよいかなと思いました。

中学校用P.36～37

委員会活動の中での活用事例

ある学校では，生徒会活動の中の委員会の一つである保健委員会が，中学校用P.18～19，P.20～21「元気ですかあなたの心とからだ」の見開き2ページずつ計4ページを掲示した。自分たちのアイディアで，朝ごはんアンケート結果もあわせて掲示した。

様々な時間での記述を掲示した事例

子どもたちが様々な時間に「心のノート」に記述した内容を掲示した。授業の中で十分に交流しきれなかった子どもたちの意見や疑問を紹介するよい機会とすることができた。

なお，掲示による意見交流を考える場合は，そのことを子どもたちに伝えるようにする。また，関連する「心のノート」のページや授業で使用したワークシート，通信，子どもたちの写真などを掲示することにより，教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導の充実につながる。

中学校用P.110への記述内容を掲示

家庭で家族と共に活用する

家族との話合いの機会をつくり,心を膨らませる

本場面におけるポイント

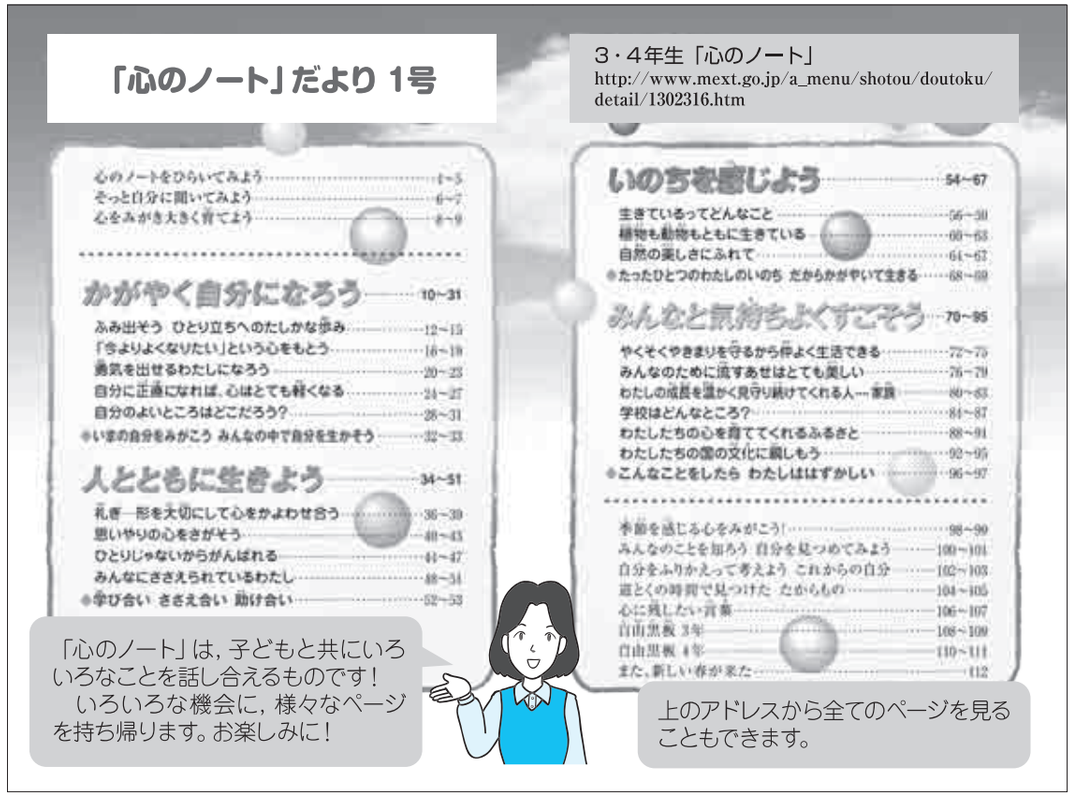
●**自分をゆっくりと振り返る**
ページを家に持ち帰り，書き込んだり，家族と話し合ったりして，自分をじっくりと見つめる。

●**自分の新しい面を知る**
家族との話合いの中で，自分の知らなかったことや新しい面を発見する。

●**家族の中の自分の立場を感じる**
家族新聞などを一緒にまとめるなどして，家族の中でかけがえのない一人としての自分を感じ，家族を愛する思いを強める。

家族に「心のノート」を知ってもらう（4年）

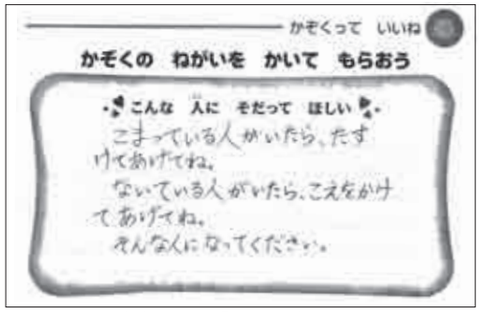
4年のある学級では，新年度の初めに，「心のノート」のURLと「もくじ」をプリントし，「心のノートだより1号」として配布した。



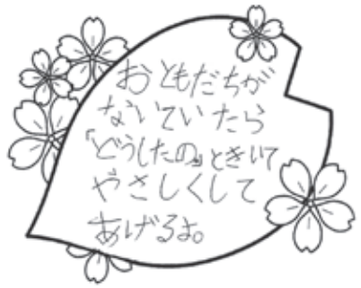
◇学校生活の様々な機会に応じて，タイムリーなページを持ち帰らせ，家庭で話し合ってもらえるようお願いをした。
◇持ち帰る機会や書き込みを集めた際に，担任の思いや家庭で話題にしてほしいことを「『心のノート』だより」としてメッセージを発信することも有効である。

保護者から子どもへのメッセージに返事を書くことを促した事例（1年）

1・2年用P.80～81「かぞくが大すき」の中に「こんな人にそだってほしい」という保護者から子どもへのメッセージ欄がある。1年生のある学級では，家庭での関わりを一層深めてもらいたいと考え，このページを印刷して子どもに持ち帰らせ，保護者にそのページに書き込んでもらうように依頼した。



保護者からの「こんな人にそだってほしい」



子どもから保護者へのメッセージ

ページが集まってきたところで，保護者の願いを整理してまとめ，「おうちの人は，みんなにどんな人になってもらいたいのかな?」と話題にし，様々な保護者の願いを紹介した。

その後，返事を書きたいという子どもの声をもとに，子どもから保護者へのメッセージカードを作って配布した。

子どもが家族の中で自分の居場所を確かめる「家族新聞」（5年）

5年生のある学級では，5・6年用P.96～99にある「わたしの原点はここにある」の中のP.99「家族新聞」を書いてみないかと提案した。興味をもった数名の子どもが「家族新聞」作りに取り組み，朝の会のスピーチなどで楽しそうに紹介する姿が見られた。

◆家族新聞を書いた子どもの感想
「○○家のユーモア新聞」を書きました。はじめは，ちょっとめんどうかなと思ったけれど,お母さん,お姉ちゃんといっしょに書いていたら,だんだん面白くなってきました。お父さんに見せたら「これは楽しい新聞だね」と言っていました。

ユーモアたっぷりの家族新聞▶

◆家族新聞を書いた家族の感想（連絡帳より）
きのうの夜,娘たちと新聞を書きました。「わが家のニュース」「わが家のベスト5」などを考えていくうちに,不思議なくらいに盛り上がりました。こんなことを話し合ったのは今までなかったように思います。すぐに「第2号も作ろう」という話がまとまりました。